

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続ができるようにこれまでの理念を見直した。	○ 今後も地域の中でその人らしく暮らし続けるように支えていく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について話し合い、意識づけ日々のケアに理念を反映させている。日常のケアのあり方についても理念に立ち返って検討している。	○ 今後も理念について話し合い、意識づけ日々のケアに理念を反映させていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所内に掲示し、説明を行っている。	○ 今後も掲示しご家族の訪問時に説明を行っていく。又見学者、地域住民との集まりでも分かりやすく説明行っていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日、散歩や買い物に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。グループホームに気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。	○ 今後も毎日の散歩に出て地域の方との交流を深めていく。地域の方がいつでも訪れる雰囲気を作っていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、運動会など積極的に参加している。自治会にも加入し、グループホームで行う行事の案内も回覧してもらい参加依頼している。	○ 今後も老人会、自治会、行事、地域活動の積極的に参加し地域の人々と交流することに努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れを積極的に行っている。事業所での成果を地域に伝える場が作られていない。	○	これからも実践内容を踏まえ地域内での研修、会合に係りながら認知症のケアの啓発に努めていく
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関しては全ての職員でケアを振り返る機会と受け止め、全職員間で話し合いながら作成しケアの質の向上に努めている。外部評価の結果はスタッフ会議で報告し改善に向け検討実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの評価結果を報告し、取り組んでいる内容を説明し意見をもらっている。	○	これからも活動を明示し、助言を意見をもらいながら質の向上を図っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に行き来する機会が少なく市担当者との連携があまりとれない。	○	必要に応じて市との連携に努め質の向上を図っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは主に管理者が対応するため、他の職員は深く理解していない。	○	勉強会を開き職員の理解をさらに深めるようにしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はしないケアを職員が周知し実行している。	○	勉強会を開き職員の理解をさらに深めるようにしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用案内説明書や重要事項説明書により家族へ説明を行ない同意を得ている。退所後についても相談・援助を行う旨説明している。</p>	<p>○</p> <p>今後も家族の不安解消のため、充分説明を行い理解、納得を図っていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の受け入れを行っており、利用者の意見を聞き運営の参考にしている。利用者の一人一人の言動に注意し、利用者本位の運営に心がけている。</p>	<p>○</p> <p>今後も相談員の受け入れを積極的に行い、利用者の意見を運営に反映していく。又利用者が何でも話せる雰囲気を作っていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月一回、利用者の暮らしぶりをお便りに写真をつけ報告している。金銭状況、職員の移動についても同時に報告している。心身の状況については何らかの変化や問題が起きたときは必ず電話で報告、相談している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には手紙や訪問時に必ず声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された要望、意見、不満、苦情はスタッフ会議で話し合い反映させている。苦情受付窓口の連絡先を玄関に提示している。</p>	<p>○</p> <p>今後も何でも話せる雰囲気を作り、出された要望、不満、意見、苦情はケアに反映させていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議を月1回開き、意見を聞くようにしている。出された意見については常に運営者に報告し、運営に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況に応じて勤務時間の変更を行い対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がやむ得ない場合、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。移動については必要最低限の移動以外は行わないようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修参加の機会を作っている。同法人内の事業所と合同で研修会を行い報告を行い、いつでも閲覧できる。	○	今後も法人内、外部研修に参加してもらい全職員のケアの質の向上を図っていく。職員全員が介護福祉士等の資格習得を目指していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に加入していない。他のグループホームの見学や交流を持つことで質のケアを図っていく。	○	連絡会に加入を検討し、他のグループホームの見学や交流を持つことで質のケアの向上を図ってきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換ができるように配慮している。職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるように職場環境・条件について配慮している。資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を尊重し活かしてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況を十分把握するように努め、自宅で面談し、心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れえるような関係づくりに努めている。	○ 今後も本人の思いや不安を受け止め、安心してもらえるように努力し、信頼関係が築けるように支援していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めていることを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、十分話し合っている。	○ 今後も家族の思いや不安を受け止め、安心してもらえるように努力し、信頼関係が築けるように支援していく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時困っていること、不安なことに対して、できることはすぐに対応するが、困難なことは必要に応じて他のサービス機関につなげている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人に施設を見学してもらい、雰囲気を見てもらい安心して生活できるか見極めてか安定的な利用に移行している。又家族にも頻繁に来てもらい安心感を持ってもらう。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互い一緒に生活している。和やかな生活ができるように調理、片付け、縫い物等積極的に行なってもらい職員も学ぶことが多い。	○ 今後も本人の思いを共感し理解していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支える姿勢で相談しながら協力関係を築いている。	○	今後も本人を家族と一緒に支えていく関係を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態を報告・相談し、外出、外泊で家族と一緒に過ごすことを進めたり、行事に家族を誘ったり、より良い関係づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者、妻の墓参りに行き続けている利用者、友人、知人が訪問してくれたり継続的な交流ができるように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	中の良い入居者同士過ごせる配慮をしたり、孤立しがちな入居者が交わるような場面を作っている。食事の時間は職員も一緒に同じテーブルでゆっくりと会話しながら摂っている。	○	今後も入居者同士が助け合い、よい関係が築けるように取り組んでいく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した後も必要があれば継続して支援、援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。ご家族からも情報を得るようにしている。	○ 今後も職員全員が一人ひとりの思いや意向について感心を払い、把握に努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問しどんな生活をしていたか見て、家族に聞いている。又これまでの生活史を書いてもらったり、訪問時折に触れ少しずつ聞き取り整理している。	○ 今後はセンター方式を用いてアセスメントを]行なっていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が利用者の生活リズムを理解するとともに総合的な把握に努めている。本人のできる力、わかる力の発見していくことにも努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の日常の会話や訪問の際に要望を引き出せるように働きかけを工夫し、機会あるごとに入居者、家族、職員の意見を取り入れ介護計画に反映させている。	○ 今後も利用者本位の介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月評価を行い、状態変化に応じ随時見直しを行なっている。	○ 今後も実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しをおこなっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> <p>個別にファイルを用意し、食事・排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全スタッフが確認できる</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> <p>本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応しそれぞれ満足できるように支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p> <p>本人と地域とのさまざまな接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアへの強力を呼びかけている。</p>	○	警察、消防、民生委員、自治会と連携をとり地域生活が継続できるように協力していく。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p> <p>本人の体調に応じて訪問歯科のサービスを受けている。今後もある必要があるなら介護保険以外のサービスを受けれる体制である。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p> <p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加を依頼していく。</p>	○	地域包括支援センターと連携をとっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医になっている。受診や通院は基本的には家族に同行してもらっているが、不可能な時は職員が代行するようにしている。利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談できる医師が確保できていない。それぞれのかかりつけ医に相談しながらケア行なっている。	○	認知症専門医を探し診断情報、治療方針認知症についての指示や助言をもらいたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき、定期的に訪問してもらい日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には入院目的を短期間に達成しスムーズに退院ができるように退院計画を病院関係者と、本人家族と話し合い必要な支援を行なっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体制はできている。重度化の時期を迎えた場合、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、又、日常の健康管理や急変時にすぐに対応できるように常日頃から話し合っていく。	○	重度化の時期を迎えた場合、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、又、日常の健康管理や急変時にすぐに対応できるように、今後も常日頃から話し合いをおこなっていく。職員全員で方針を共有していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、本人が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいく。	○	重度や終末期に向けて、常日頃からご家族、訪問看護師や主治医と連携を図りながら情報交換をしていく。又職員間でも勉強会を行なっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>支援状況等情報交換を行い、新しい場所でダメージを最小限になるよう努力している。</p>	○	<p>アセスメント、ケアプラン、支援状況等情報交換を行い、移られた事業所に訪問に行くなど新しい場所でダメージを最小限になるよう努力していく。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>利用者の誇りやプライバシーを損ねない声かけ対応の徹底を図っている。</p>	○	<p>今後も利用者のプライバシーを損なわないようなケアを職員一同徹底していく。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、書いたり、簡単なジェスチャーで伝え本人が決めるようにしている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>買い物、散歩、入浴等一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある柔軟な支援を行っている。</p>	○	<p>今後も利用者本位、その人らしい生活を目指した支援に取り組んでいく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>今まで行きつけの理美容院がある方はそちらで希望のカット、毛染めを、他の方は近くの理美容院にスタッフが付き添い行っている。朝の着替えは基本的には本人の意向で着替えているが自己決定のできない方には、スタッフが一緒に考え本人の気持ちにそった支援を心がけている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みを聞きながらメニューに取り入れている。調理、盛り付け、片付け等一緒に行い、スタッフと利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好を把握しており本人の様子や時間を見ながら、それらを楽しめるように支援している。お酒はイベント時に楽しんでいる。	○	「毎晩晩酌を」といわれる方には他の人に迷惑ならないように考慮しながら、お酒を日常的に楽しめるように支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合わせた時間、習慣でトイレ誘導をすることで、トイレで排泄を行っている。オムツ使用も常に見直しを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間は一応決めているが要望、希望に合わせた入浴ができています。	○	今後も要望、希望に合わせた入浴ができる体制を整えていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、一人ひとりの体調や表情、希望等考慮してゆっくりと休息できるように支援している。寝付けないときには、添い寝したり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。それぞれの経験や知恵を発揮できる場面を作っている。	○	今後も毎日の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族相談の上、小額を手元にもっている方もいる。買い物に行き好きなおやつを選び、お金を自分で払っていただき楽しんでもらっている。	○	今後も利用者の希望や力に応じ、買い物と一緒にいき、好きな物を選んで自分で支払い、楽しんでもらうと共に、お金がある安心感や満足に配慮した支援を行っていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらう、心身の活性につながるように毎日の散歩、買い物、ドライブ、外食、お弁当を持って戸外に出かけている。又車で物産館に出かけ季節の野菜を買いに行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に家に帰ったり、墓参りに行ったり遠くまで出かけている。事業所側から希望を出してもらうように働きかけをしていく。	○	希望がかなえられるように職員で検討し、家族の協力をえながら支援につなげていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる支援をしている。	○	今後も手紙やはがきが書けない人には職員が手伝い、電話もいつでもかけられるような雰囲気を作り支援した行く。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めず、いつでも訪れるような気軽で来やすい雰囲気作り、空間作り、職員が笑顔で迎えるように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等でその日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか等点検している。	○	今後も勉強会を開き拘束しないケアに取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が鍵をかけることの弊害を理解している。外出の希望が強い方には見守りに対応している。玄関前は交通量が多く安全を目的とした施設であるため安全が確保できる時間帯の開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは利用者と同じフロアで記録、事務作業を行いさりげなく全員の状況を把握することに努めている。夜間は数時間ごとの訪室やモニターで確認を行い安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し事故を未然に防ぐよう事故防止に取り組んでいる。事故が発生した場合は、速やかに事故報告書を作成し事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。	○	今後も事故を未然に防げるように、予測される危険を検討し事故防止に取り組んでいく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し全ての職員が対応できるようにしている。	○	研修を受けてもいざという時には不安というスタッフが多い。不安の部分に訪問看護師の協力をもらい、事業所内でも研修を行っていく。 夜勤時の緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底を図っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携を図りながら事業所内の訓練は行っているが、地域住民の参加協力を得た非難訓練は行っていない。	○	今後は地域住民の協力を得られるように働きかけていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	今後も 適時家族に説明し理解を得る努力をしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	今後も職員が薬について把握でき、用量の変更、副作用について確実に情報伝達を行い、詳細に記録、医療との連携をとれるようにしていく。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	便秘がちな方には自然排便を促す工夫を個別的に取り組んでいく。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修も行い、予防、対策を把握している。利用者および家族に同意をいただき、職員も同時にインフルエンザ予防接種を受けている。外出後は手洗い、うがい、ペーパータオルの使用等予防も徹底している。玄関に手指の洗浄機を設置し来訪者にも協力を依頼している。	○	今後も感染症については定期的に勉強会を行ない職員各自自覚し、徹底した衛生管理を行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水周りは清潔、衛生を保つよう漂白、消毒液、乾燥機を使用している。新鮮で安全な食材を使用する為、毎日買い物に出かけてなるべく買いためしないようにし、食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したり処分している。残り物の点検は頻繁に行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるように、季節の花を生けたりプランターを置くなど違和感、威圧感のないように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具調度品は家庭的な物を設置しており、装飾等も家庭的な物を飾り季節の花や皆で作成した作品を掲示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに一人になれるコーナーいす、2、3人で談話できる長いすを置き工夫をしている。	○	今後も家にいるような気持で生活できるよう 居心地の良い空間づくりを行なっていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>今後も家族と協力し、使い慣れた家具、好みのものを持参していただき安心でき、居心地良く過ごせるように取り組んでいく。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>常に快適な環境作りに留意し調整していく。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>玄関前に植木、プランターを置き、植木の水やりや手入れを行っている。水やりは毎日交代で行いリハビリの一環としている。2階への移動は日中階段を使い移動してもらっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

武岡団地の中心に位置し、近隣に病院・学校・郵便局・金融機関の公共機関やスーパーマーケット等商店が立ち並び人通りの多い賑やかな幹線にあります。回りには閑静な住宅街も広がり生活の場としては最適な環境にあります。近くにはたくさん公園もあり、毎日の散歩で下肢筋力の強化を行い、庭先の花木を眺め季節を感じ楽しんでます。ホームの玄関先にも季節の花々を植え、毎日の水やりを行い美しい花を楽しみにしています。又、梅干し作り、ラッキョウ漬、ぬか漬を作り食卓に並べ利用者と一緒に味わい楽しんでます。

今後も私たちは全職員が「ここで生活したい」言える家庭的で暖かいホームにと取り組んでいきます。